

リハ職との協働の効果と 連携上の課題



臼杵市医師会地域包括支援センターコスモス
保健師 藤澤 沙樹

ケア会議が始まって3年が経ちました

主任ケアマネ/保健師/社会福祉士

包括職員/高齢者支援課



包括

コーディネーター

発表者

事業所

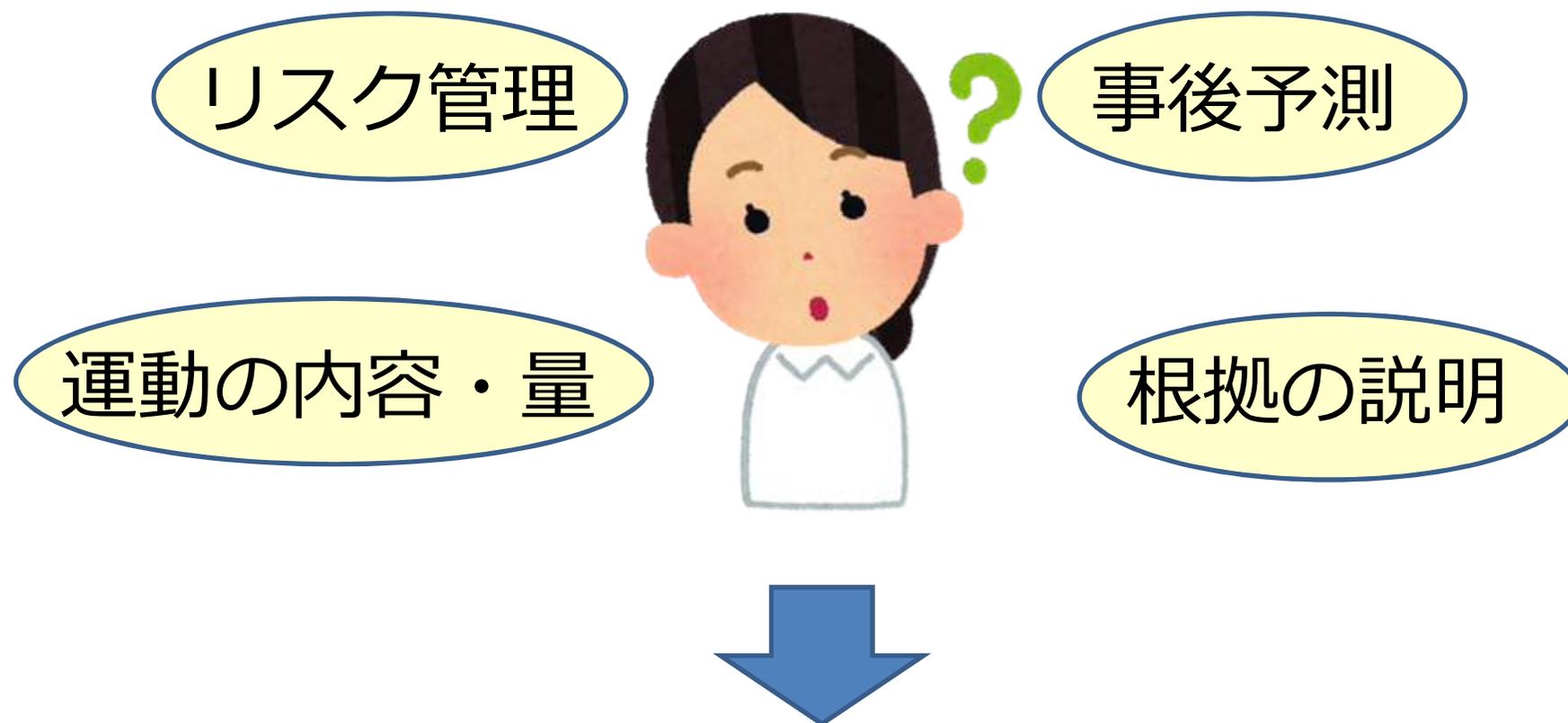
書記

アドバイザー

PT/OT
栄養士
歯科衛生士
薬剤師
保健所
高齢者支援課

ケアマネのアセスメント能力は格段に向上
「自立支援」という言葉の定着

ケアマネにできた新たな課題



リハ職等配置派遣事業の活用

事例 1 : Aさん 68歳 女性

脳梗塞 3回

閉じこもり

軽度
右半身麻痺

入浴に対する
不安



5M歩行
10.86秒

Aさんの
願いは3つ👉

- 買い物に行きたい
- 杖を持たずに歩きたい
- お風呂に一人で入りたい

ケアマネの事前のアセスメント

現在、杖歩行。
ゆっくりであれば
距離は歩ける

自宅前の横断歩道は約 1.1 m
点滅までは 1.5 秒

ふらつきによる転倒あり

跨ぎ動作はできるが、
不安定。疼痛なし。

浴槽の高さは 65 cm

浴槽に入ることへの不安



閉じこもり生活

不安

悪循環

下肢筋力低下
バランス機能の低下

活動量低下

実際のリハビリテーション 派遣依頼書

【リハ職への依頼内容】

- ① 歩行速度を上げるための訓練や、福祉用具の選定について
- ② 入浴時の跨ぎ動作の確認や動作訓練について

リハビリテーション派遣依頼書

作成者

日時	平成 27 年 8 月 20 日 午前・午後		
事業所	白杵市医師会 地域包括支援センターコスモス		
支援相談者			
利用者氏名	様	男・ <input checked="" type="radio"/> 女	68 歳
	(夫携帯) TEL (080) - - -		
住所	地区 <input checked="" type="checkbox"/> 白杵 <input type="checkbox"/> 市外 <input type="checkbox"/> 野津	大字白杵	
基本情報	コスモス病院受診歴 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 入院中 <input type="checkbox"/> 退院予定日 () <input type="checkbox"/> 不明		
	かかりつけ医	内科クリニック	<input type="checkbox"/> 専ら夜 <input checked="" type="checkbox"/> 専ら夜2 <input type="checkbox"/> 総合事業
	一人暮らし・ <input checked="" type="checkbox"/> 家族同居・その他 () 大と2人暮らし		
病名	#1. 多発性脳梗塞 #2. 高血圧症 #3.		
介護保険サービス	デイケア・ <input checked="" type="checkbox"/> デイサービス (週2回に1回)・ヘルパー・訪看・その他 ()		
生活課題	脳梗塞後遺症のため右半身マヒ。構音障害がある。起居動作や移動時、転倒時		
ケアプランの目標	① 転倒に気を付けて横断歩道を渡ることができる。(直横断歩道 約11m, 点滅赤灯) ② 自宅でヒソヒソシャワー浴ができる。		
相談内容	<input type="checkbox"/> 住宅改修 <input checked="" type="checkbox"/> 福祉用具選定 <input checked="" type="checkbox"/> 自主訓練メニュー <input checked="" type="checkbox"/> 身体機能評価 <input type="checkbox"/> 退院前訪問 <input type="checkbox"/> 退院後訪問 <input checked="" type="checkbox"/> サービス事業所への指導 <input type="checkbox"/> その他 ()		
	[具体的な内容] ① 買い物や公民館活動に参加するためには横断歩道を渡るだけではなく、現在ロフト社を使用しギリギリの状態のため、渡ることには不安がある。 歩行速度を上げるための訓練や福祉用具選定について		
	② 入浴時の跨ぎ動作の確認や動作訓練について (事業所同席)		
訪問希望日時	第一希望	第二希望	第三希望
備考			

竹村PTによる自宅訪問

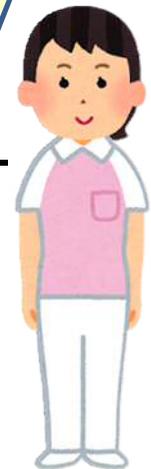


この手すり
を持ってやっ
てみて

- ・ 自宅での運動プログラム
- ・ アセスメントの仕方
- ・ 声かけの仕方

デイサービスの担当者も
同席しました！

- ・ デイサービスでの
運動メニュー
- ・ 介助歩行の仕方
- ・ 跨ぎ動作の仕方



利用者・ケアマネ・事業所 3者の学びの場

竹村 P T のアドバイスをを受けて事業所が作りました！

下肢筋力を上げて、
浴槽台と浴槽外に踏み台
があれば入浴はできる！



自宅の浴槽 65 cm から、
浴槽台 20 cm の高さを引いた
45 cm に設定

自宅での運動を行なえているか、
チェック表も作成し、
本人のやる気にも繋げました。



ペットボトルを使った
『**跨ぎ動作訓練機**』



Aさん、こんなに向上しました！

Aさんの願い：その① 買い物に行きたい
その② 杖を持たずに歩きたい

5m歩行 10.86秒 ⇒ (半年後) 6.91秒

歩行が安定し、杖を持たずに歩けるようになった！

Aさんの願い：その③ お風呂に一人で入りたい

デイでの跨ぎ訓練で、
動作が安定し、自宅で入浴できるようになった！

リハ専門職・利用者・ケアマネ・事業所が
協働したからこそこの結果

事例 1 : Kさん 男性 80歳



既往歴：平成22年 心筋梗塞発症
ステント留置法施行

【包括への相談内容】

福祉用具(浴槽台)購入の為、
介護保険の申請を希望され来所。

Kさんが浴槽台を欲しい理由



浴槽からの立ち上がりが大変

介護保険を使ったら、安く買えると聞いた



本当に
浴槽台が必要？



大変になった
原因は？

Kさんの「自立支援」に向けて
私がすべきことは**身体機能の向上**



判断に迷いました

①リハ職の定期的な介入による指導が必要



総合事業の申請を検討

②リハ職の指導があれば改善の可能性あり



申請は保留
セルフメニュー等の提案

まずは、身体の動きと心機能を評価したい

リハ専門職に相談しよう



健康にとっても気を遣っているKさんは、
脈拍が100を超えると不安でたまらない

気を付けながら、
ゆっくり・・・



- 腕時計タイプの心拍計を常に装着
- 廊下を毎日20往復
(20分程度)
- ずっと心拍計を見ながら歩くKさん。
やや前傾姿勢に。

近所の散歩をやめ、自宅内の廊下を歩くことに変えた。

およそ10段の階段 立ち止まる事、3回

気を付けるあまり、
徐々に活動量が減り、
筋力が落ちてきた

バランスは
悪くない



100を超えない
ように・・・

心臓リハビリテーション専門の 安藤 P T が同行訪問してくれました。

以前歩いていた
散歩コースを、
実際に歩いてみ
ましょう！



携帯型の心拍計

心リハ専門の P T 同行で、
本人の**安心感**も大きい



緩やかな坂も歩いてみました

もう少し、
歩幅を大きく歩いて
みましょうか

いいですよ～！
これくらいだったら
大丈夫です！



本人が気にしていた「100回/分以下」は
2～3年前に言われたもの。
最近の検査結果も問題なく、

実際には「95～105回/分」が目安

安藤PTとの散歩を終えたKさんに、 散歩再開に向けて意欲が出てきた

- ・長い距離歩いても意外に大丈夫な事が分かった。
- ・家の中よりも、外の方が気持ちがいい。
もう一度、散歩を始めてみようかな。



安藤PTの評価

- ・屋外歩行は概ね105の心拍で行えた。
- ・運動制限の必要はない。
- ・全体的に前傾姿勢、やや小刻みななので、大股歩きを指導。
- ・フリー歩行でも問題ないが、手を振らない歩行である為、ノルディックが良いのでは。

Kさんは健康意識が高く、
専門家の指導内容を守れる方
下肢筋力が向上すれば、
浴槽台は必要ないので、

介護保険・総合事業の
申請は行わない。



介護保険も総合事業も使わず、
自立へとつながった。

包括職員16名へ聞きました！



「包括へのリハ職配置は
必要と思いますか？」

答えは、**全員が『必要』**と回答

協働によりそれぞれの意識が変わり
自立支援の促進につながったから

リハ職との協働による効果

- ・ 安心、意欲の向上
- ・ 自宅での運動継続
- ・ 通所サービス等の開始
- ・ 本当に必要なサービスの受け入れ



利用者

ケアマネ



事業所



- ・ 視点の変化
- ・ より具体的な目標設定と評価
- ・ 根拠のある助言や指導
- ・ 本当に必要なサービスの選定



- ・ その人に合った運動指導
- ・ 目標に向けた訓練の実施・評価
- ・ 適切な住宅改修や
福祉用具の選定
- ・ 「自立」に向けた支援

それぞれの立場における課題



ケアマネ

- ・ケアマネのアセスメント能力の向上が必須
- ・リハ専門職にケアマネ自身が依存しすぎないこと
- ・リハビリに対する知識を深めるなど、

ケアマネ自身の研鑽も必要

- ・専門家としてのスキル向上
- ・在宅に対する理解や視点についての研鑽
- ・介護保険制度や総合事業など制度面への理解



リハ専門職

リハ職との協働に必要なこと

いつでも相談できる顔の見える関係

「依存」ではなく、「協働」という共通認識

タイムリーな対応と継続支援できる体制

経験のあるスキルの高いリハ職の配置



ご静聴ありがとうございました



国宝 白杵石仏



二王座の石畳